

令和6年度 五城目町文学祭入選作品集

表彰を受けられる皆さん

【功労賞】

五城目町の各分野において、その育成指導につとめ、町の名譽を高めた功績の顕著な個人・団体

🌸 畠山 利信さん (76歳・高千)

【栄光賞】

町民または町出身者であって、全国的な水準以上の活躍をし、他の模範となるような優秀な成績を取めた個人・団体

🌸 石井 正春さん (69歳・町村)

第50回全日本スポーツ射撃競技選手権大会 第3位

🌸 佐々木優太さん (21歳・育英大学)

U23世界選手権 日本代表選考会 男子フリースタイル97kg級 優勝

【部門別表彰者】

❖町内会長表彰

10年以上にわたり、町内会長として地域の自治活動や町政の浸透につとめ、地域社会の発展に貢献し、後進に道をゆずられた方

🌸 (故) 今村 恒夫さん (享年70歳・米沢町) 17年 (退任)

🌸 小玉 俊雄さん (76歳・北北口) 13年 (退任)

🌸 荒川 滋さん (57歳・築地町) 12年 (退任)

❖献血功労者表彰

人命尊重の趣旨をよく理解し、率先して献血に協力され、令和5年9月1日以降献血回数が20回以上に達した方

🌸 伊藤 友治さん (45歳・上田町) 21回

❖善行者表彰

自ら進んで奉仕し、社会の浄化、後進の育成などに著しい功績があった方、または、10万円以上の金品を教育、福祉関係に寄付された方

🌸 齊藤 幸作さん (66歳・雀館)

まちづくりを支える みなさんを表彰します

町では、町の発展や各部門での功績があった方々を表彰する「令和6年度町功労者表彰式」を11月5日(火)に開催します。

表彰式では、本年度新たに町功労者に選出された北嶋悦子さんのほか、功労賞、栄光賞、部門別表彰者の皆さんの表彰を行います。

町功労者

北嶋悦子さん

(82歳・川原町)



民生の安定や健康と福祉の増進に貢献

北嶋さんは、平成13年から6期18年の長きにわたり、民生委員・児童委員を務められ、地域の相談役として住民の立場に立って相談に応じ、適切な援助やサービスへつなげる活動を行うなど、社会福祉の向上に努め、民生の安定に多大な貢献をされました。

また北嶋さんは、昭和57年4月から42年余りの長きにわたり、歯科衛生士として幼児の歯科衛生指導にご尽力されるとともに秋田県歯科衛生士会会長を18年間務められ、歯科衛生士の資質と倫理・高揚を図られたほか、口腔保健を通じて町民の健康と福祉の増進に寄与されました。そのほか、平成18年4月から17年余り

にわたり、町地域包括支援センター運営協議会委員、平成29年4月から7年余りにわたり町介護保険事業計画策定委員、令和元年4月から5年余りにわたり町自殺対策計画(第1期)協議会委員、令和5年4月から第2期健康づくり21計画及び町自殺対策計画策定委員として、地域の福祉向上にご尽力されております。また、平成24年4月に町ボランティア連絡協議会が設立されると、当初から副会長、平成30年4月から会長として高齢者の憩いの場所を開設するなど、高齢者にとっての生きがいづくりにご尽力されております。

さらに北嶋さんは川原町町内会長として、町内会員の統率を図られ、町政の進展に貢献されております。

短歌

選者 大川 澄雄
(大瀧村)

入選一位『三通のハガキ』より

(下樋口) 小熊 正明

飛鳥路を髪なびかせて巡りぬむ君のハガキの文字昂ぶれり
端正なハガキの文字にこもるもの夫を亡くしし君のかなしみ
追伸に思ひのこもる小さき文字秋には逢ふこと歌かたること

評 一首一首に作者の思いを織り込んだ物の見方に厚みがあり、歌の深さ、穏やかさを以って情感を醸し出して、揺るぎない調べの中に作者の感性が光る作品でありました。

入選二位『夏祭り』

(大川) 八柳 知徳

村祭り懐かしき人ら集ひきて
会話弾めば三日月笑ふ
一年の歳月はみな等しきも
子らの成長目を見張らざる
笑ひ声残し駆け出す幼子の
背の遠ざかるしぼし見つめむ

評 日常の出来事を巧みに捉えていて、その歌の流れに作者の心の思いが伝わる。「首目の三日月笑ふ」に何とも言えない微笑みを感じさせ、表現の柔しさに感銘致しました。

入選三位『望むころ』

(八郎湯町) 小柳 文子

パリの夢つかんだ拳きやしやなれど強い意志あり綿毛跳ね飛ぶ
最後かも船旅支度ぬかりなく
卒寿の姉のクール便着く
夏休み旅出る孫らへお餞別
字手紙添えて仏だんへ置く

評 三首それぞれに味があり、素直な自然体での表現には好感を持つ。高齢で在られる方なにか飾り気のない歌の中に、生き様としての教えが読み込まれた作品でありました。

俳句

選者 岩谷 塵外
(秋田市)

入選一位『身の丈に生きて』

(八田) 伊藤 豊子

身の丈に生きて路傍の草の花
霧の中夜勤帰りの空弁当
鬼灯を鳴らす婆様の童女顔

評 感慨深い句群に感心した。一句目の「身の丈に生きて」という生活信条を「草の花」に託して表現されたことに作者の力量を感じる。二・三句目の「空弁当」「童女顔」が奏功。

入選二位『終戦忌』

(上高崎) 館岡 絢

辞世の詞緑のインク敗戦日
今日だけは辛口の酒八月十五日
ぎりぎりの線に白球原爆忌

評 一句目「緑」は決別を意味する色と云われており俳句の「緑のインク」が的確。三句目は甲子園野球の一場面であろうか。二・三句目にも季語が動かない。どの句も心に響く。

入選三位『戻れるならば』

(昭辰町) 本間 富子

農を継ぎ日焼の君に焦がれし日
畦青む二人で歩きかつた道
コスモスや戻れるならば二十歳へと

評 青春時代回想の三句。健康的で清潔感に溢れている。一・二句目の「日焼」「畦青む」が清々しい。三句目の「戻れるならば二十歳へと」が読者の共感を呼ぶ。

入選四位『母』

(八郎湯町) 北嶋 美保子

夏休み従兄弟が揃ふ母の里
ほほづきを上手に鳴らす母若し
夜なべしてミシン踏む音母恋し

評 一句目「夏休み」に揃った従兄弟連の様子が目立つ。二句目の「母若し」の断定が良い。三句目は母への賛歌。「夜なべ」が胸を打つ。各句の素直な表現に惹かれた。

川柳

選者 近藤 たつお
(能代市)

入選一位『きずな』

(館町) 細田 実

子に託す道を綺麗に掃いておく
火も風もあつた唇は薄くなる
絆つていいな笑いが尽きぬから

評 家族を大事に、友人仲間を大事に生きてこられた作者。自ずと託すべき道ができていたのでしょう。火も風もあるべくしてあるもの。幸せな笑い声が聞こえて来そう。

入選二位『夏色』

(新畑町) 荒川 剛

青と雲クリームソーダ指をさし
それぞれのデザイン空は自由帳
片付けた辞書に私の過去がある

評 クリームソーダを舐めながら自在な線を引き、色をぬる作者。もちろん失敗もあった。過去は過去である。自由で広い空が大好きで、駆けだしてしまおう。

入選三位『縄電車』

(西野) 佐藤 千鶴子

子離れをこっそり祝う夫婦独楽
海ほどの深い介護とめぐり逢う
いつの日か独りで走る縄電車

評 無と無の間に独楽となり、子育てを終え愛し愛されることを知ることができた。独りの縄電車もいいではないか。万感の句たち。

入選四位『草』

(脇) 伊藤 美千代

悪いことわるいとのおもう草でいる
小さいがそれなりくら草の花
踏み込まれおもしろいならぬけど

評 現状変更を迫る戦車ミサイルの言に戦慄をおぼえる。小さな花が美しいこと、悪いことはわるいと思つ心がどれほど大切なことか。小さな花を咲かせる小さな草が眩しい。

主催 五城目町教育委員会
五城目町芸術文化協会